

XMT-500 ファームウェアリリースノート

Version 1.05

- ・Flicker Finder アプリ：
 - ・提供された信号の値の変化や信号エラーを監視することにより、DMX のトラブルシューティングが可能になります。
 - ・分析を実行する前に、ルーティングソフトキーを使用して受信アプリと同様にアクティブプロトコルを選択します。
 - ・チャンネルが「変更」されたとカウントするために超える必要がある「しきい値」を設定できます。
 - ・変更を検索するチャンネル範囲を設定できます。
 - ・「Start」を押すと分析が実行され、後続のパケットの値と比較するために使用される参照パケットがキャプチャされます。
 - ・実行画面では、次の統計情報が表示されます：
 - ・ Time：分析の合計実行時間 (H:MM:SS.s)。
 - ・ Time No Signal：有効な信号がない分析の合計時間 (H:MM:SS.s)。
 - ・ Channels Received：各パケットで受信されるチャンネルの数。
 - ・ Channels with Changes：参照パケットと比較して、設定されたしきい値以上変化した、設定された範囲内の任意のパケット内の受信チャンネルの数。
 - ・ Signal Errors：検出された信号エラーの合計。これは、UART フレーミングエラーまたは UART ノイズエラーを意味します（以下のレポートを参照）。
 - ・レポートではさらに詳細を見ることができます：
 - ・上記の内容を含む概要画面。さらに、以下の内容が表示されます：
 - ・「シグナルエラー」を「フレーミングエラー」と「ノイズエラー」として表示します。
 - ・「Framing Error」は、ストップビットが期待どおりに受信されなかった場合に発生する UART 受信エラーです。
 - ・「Noise Error」は、1 ビットのサンプル（すべてハイまたはローになるはず）が予期せず変化する UART 受信エラーです。
 - ・「Frame Slot Count Change」は、フレームのスロットカウントが前のフレームと異なる回数です。
 - ・「DMX Frame Count」は受信した DMX フレームの合計数です。
 - ・「RDM Frame Count」は、受信した RDM フレームの合計数です。
 - ・「Other Frame Count」は、DMX フレームでも RDM フレームでもない受信フレームの合計数です。
 - ・チャンネル画面には、エラーのある受信チャンネルの詳細が表示されます：
 - ・チャンネル画面には、そのチャンネルの「変更回数」が表示されます。以下を参照してください：

- ・チャンネルをクリックすると、さらに詳しい情報が表示されます：
 - ・「Number of Changes」は、チャンネルに記録された参照値が含まれていなかったパケットの数です。
 - ・「Number of Received Values」は、そのチャンネルを含むパケットの合計数です。
 - ・「Min Value」は観測された最小値です。
 - ・「Max Value」は観測された最大値です。
 - ・「Reference Value」は、最初に受信したパケットから取得された参照値です。
 - ・分析は、それぞれ「Pause」または「Resume」を押すことで、いつでも一時停止および再開できます。
 - ・アプリは「デバイスの電源をオフにする時間」設定を無視するため、分析中にデバイスを放置することができます。
 - ・「Reset」を押すと分析が停止し、セットアップ画面に戻ります。
- ・Tracer アプリ：
- ・時間の経過に伴う最大 4 つの異なる DMX 値をグラフ化できます。
 - ・ルーティングソフトキーを使用して、受信アプリと同様にアクティブプロトコルを選択します。
 - ・チャンネルはアプリの設定メニューで設定できます：
 - ・チャンネルのトレースを有効または無効にします。
 - ・無効になっているチャンネルは、アプリ画面のチャンネル名の下の部分に「-」が表示されます。
 - ・トレースする DMX チャンネルを設定します。
 - ・現在設定されているチャンネルは、アプリ画面のチャンネル名の下に表示されます。
 - ・タイムベースは 0.5 秒または 1.0 秒に設定でき、アプリ画面の水平スケールを設定し、より長く、またはより良い解像度でキャプチャすることができます。
- ・Timings アプリ：
- ・より多くの情報を表示できるように画面レイアウトを改善しました。
 - ・フィールド名「Slots DMX」を「DMX Slots」に変更しました。
 - ・このフィールドは適切にフィルタリングされるようになりました。つまり、DMX パケットのみがスロット数に影響します。
 - ・「Rate DMX」と「Rate RDM」の名前をそれぞれ「DMX Rate」と「RDM Rate」に変更しました。
 - ・0x00 (DMX) や 0xcc (RDM) 以外の代替スタートコードのレートを表示する新しいフィールド「ADC レート」を追加しました。
 - ・前の DMX データスロットのストップビットの終了から新しい DMX データスロットのスタートビットの開始までの時間を表示できる新しい統計「MTBS」("MARK" Time Between Slots) を追加しました。

- 「MBB」、「BRK」、「MAB」、「MTBS」フィールドに影響する新しい設定「Statistics Mode」を追加しました：
 - 「Average」（デフォルトおよび以前の動作）では、One second ウィンドウに統計の平均が表示されます。
 - 「Min/Max」では、統計の最小値と最大値を One Second ウィンドウに表示します。
- 測定値の精度が向上しました。

- Send アプリ：
 - 現在送信されているプロトコルを示すプロトコルインジケータを追加しました。
 - 現在送信されているユニバースを示す「Uni」ラベルを追加しました（ネットワークプロトコルを使用している場合）。
 - バグ修正：スロット数を変更すると、パケットが間違ったタイミングで送信されていました。

- Receive アプリ：
 - 現在受信しているユニバースを示す「Uni」ラベルを追加しました（ネットワークプロトコルを使用している場合）。

- RDM アプリ：
 - バグ修正：しばらくするとアクセスできなくなる可能性があるプロキシデバイスの動作を改善しました。

- Device Settings：
 - ユーザーは「Device Name」でデバイスの名前を設定できます。これにより、自分のデバイスを他のデバイスと区別しやすくなります。
 - デバイスの電源がオンになると、スプラッシュスクリーンにデバイス名が表示されます。
 - デバイス名は、sACN ポート名と ArtNet のロングネームに使用されます。
 - 「Battery Information」が「Device Information」に移動しました。

- ジェネラル：
 - すべてのアプリの設定に「Restore Defaults」メニュー項目が追加され、現在のアプリのデフォルト設定のみを復元できるようになりました。
 - サブメニューは「>」記号で示されるようになりました。
 - バグ修正：V1.04 で発生した、Mark before break 中に RS-485 がアイドル状態になるという、重大ではないリグレッションを修正しました。影響を受けていたのは、送信アプリ、RDM アプリ、ノードアプリです。

Version 1.04

リリース日：2025-01-16

- Send アプリ：
 - Send アプリの設定で「Edit Mode」を設定できるようになりました：
 - Normal (デフォルト)：チャンネルに設定された値は永続的です。
 - Sticky Value：チャンネルに設定された値は、別のチャンネルに切り替えると以前の値に復元されます。XMT-350「Direct Mode」と同様の動作です。
 - バグフィックス：パーセンテージモードでの増分 / 減分が正常に機能するようになりました。
 - 改善：Address は Channel に、Level は Value に変更しました。

- Receive アプリ
 - 改善：Address は Channel に、Level は Value に変更しました。

- RDM アプリ
 - デバイスメニューの応答時間が改善されました。
 - デバイス画面のスタイルが変更され、より長い文字列を入力できるようになりました。
 - 追加の PID にアクセスできるデバイス設定メニュー：
 - デバイス画面で下を押すと、デバイス設定メニューが表示されます。
 - デバイス設定メニューは、メニュー内のすべての PID に対して GET リクエストを発行します。
 - 設定できる PID には、PID に適したエディターもあります。
 - 値のみを含む PID の場合、PID エディターが閉じられると SET リクエストが送信されます。
 - 複数の値を含む PID の場合、すべての値を表示するメニューが閉じられたときに SET リクエストが送信されます。
 - 表示される PID は、RDM 設定メニューの「Supported PID Filter」の設定によって異なります：
 - Enabled (デフォルト)：サポートされている PID デバイスレポートのみが表示されます。
 - Disabled：すべての PID が表示されます。サポートされていない PID はメニューに「N/A」として表示され、SET リクエストはデバイスから NACK _ REASON を報告します。

・次の PID をサポートします：

・プロダクトインフォメーション

- ・ BOOT _ SOFTWARE _ VERSION _ ID (0x00C1)
- ・ BOOT _ SOFTWARE _ VERSION LABEL (0x00c2)
- ・ DEVICE _ INFO (0x0060)
- ・ DEVICE _ LABEL (0x0082)
- ・ DEVICE _ MODEL _ DESCRIPTION (0x0080)
- ・ FACTORY _ DEFAULTS (0x0090)
- ・ MANUFACTURER _ LABEL (0x0081)
- ・ SERIAL NUMBER (0x00c0)
- ・ SOFTWARE _ VERSION _ LABEL (0x00c0)

・DMX512 セットアップ

- ・ DMX _ FAIL _ MODE (0x0141)
- ・ DMX _ PERSONALITY (0x00E0)
- ・ DMX _ PERSONALITY _ DESCRIPTION (0x00E1)
- ・ DMX _ STARTUP _ MODE (0x0142)
- ・ DMX _ START _ ADDRESS (0x00F0)

・パワー / ランプセッティング

- ・ BURN _ IN (0x0440)
- ・ DEVICE _ HOURS (0x0400)
- ・ DEVICE _ POWER _ CYCLES (0x0405)
- ・ LAMP _ HOURS (0x0401)
- ・ LAMP _ ON _ MODE (0x0404)
- ・ LAMP _ STATE (0x0403)
- ・ LAMP _ STRIKES (0x0402)

・ディスプレイセッティング

- ・ DISPLAY _ INVERT (0x500)
- ・ DISPLAY _ LEVEL (0x501)

・ディマーセッティング

- ・ CURVE (0x0343)
- ・ CURVE _ DESCRIPTION (0x0344)
- ・ DIMMER _ INFO (0x0340)
- ・ MAXIMUM _ LEVEL (0x0342)
- ・ MINIMUM _ LEVEL (0x0341)
- ・ MODULATION _ FREQUENCY (0x0347)
- ・ MODULATION _ FREQUENCY _ DESCRIPTION (0x0348)
- ・ OUTPUT _ RESPONSE _ TIME (0x0345)
- ・ OUTPUT _ RESPONSE _ TIME _ DESCRIPTION (0x0346)

- コンフィグレーション

- DEVICE _ UNIT _ NUMBER (0x0656)
- PAN _ INVERT (0x0600)
- PAN _ TILT _ SWAP (0x0602)
- SHIPPING _ LOCK (0x0650)
- TILT _ INVERT (0x0601)

- コントロール

- CAPTURE _ PRESET (0x1030)
- IDENTIFY _ MODE (0x1040)
- IDENTIFY _ TIMEOUT (0x1050)
- POWER _ OFF _ READY (0x1051)
- POWER _ ON _ SELF _ TEST (0x1044)
- POWER _ STATE (0x1010)
- PRESET _ PLAYBACK (0x1031)
- RESET _ DEVICE (0x1001)

- センサー

- SENSOR _ VALUE (0x0201)
- SENSOR _ DEFINITION (0x0200)

- RDM サブデバイスのサポート

- RDM デバイスがサブデバイスを報告すると、デバイス設定メニューに入るときにサブデバイスが表示されます。
- ルートデバイス、すべてのサブデバイス、または選択したサブデバイスを編集することを選択できます。

- パッチのサポート

- デバイスメニューには、新しいソフトボタン「Patch」が追加されました。
- パッチボタンをクリックすると新しいウィンドウが開き、デバイスの DMX 開始アドレスを簡単に編集できます。

- RDM データストリームでの DMX のサポート

- RDM アプリからも DMX を送信できるようになりました。
- これは、RDM アプリ設定の「DMX Output」で有効にできます。
 - RDM Only (デフォルト) : RDM のみ送信します。
 - DMX Low : 50 フレームごとに DMX パケットが送信されます。
 - DMX Med : 15 フレームごとに DMX パケットが送信されます。
 - DMX High : 3 フレームごとに DMX パケットが送信されます。

- ・DMX 値のソースも選択できます：
 - ・ DMX Input (デフォルト) : DMX 入力からの DMX 値が使用されます。
 - ・ Send App : Send アプリからの DMX 値が使用されます。
- ・デバイスメニューの並べ替えのサポート：
 - ・並べ替えは、RDM アプリの設定の「Sort Devices by」で設定できます。
 - ・ Natural (デフォルト) : デバイスが検出された順に並べ替えられます。
 - ・ Model : デバイスは製造元とモデル ID で並べ替えられます。
 - ・ DMX Address : DMX スタートアドレスで並べ替えられます。
- ・Node アプリ
 - ・標準アプリになったため、機能パッケージは不要になりました。
- ・Cable Test アプリ
 - ・DMX および RJ45 ドングルで稀に発生する誤検知を修正しました。
- ・一般
 - ・String Editor
 - ・スクロール機能を向上しました。
 - ・コピーアンドペーストでは、許可されている最大文字列長を超えて貼り付けることができなくなりました。
 - ・再度開くと有効性チェックが適切にリセットされます。
 - ・Number Editor : 負の数のサポート (範囲内の場合)
 - ・バグフィックス
 - ・まれにボタンの押下が 2 回実行される可能性がある問題を修正しました。
 - ・機能の向上
 - ・表示の更新がよりスムーズになり、アーティファクトが少なくなります。
 - ・ファームウェアのバージョンはスプラッシュ画面の右下に表示されます。
 - ・バッテリー充電画面は、「Reduce Display Brightness After」電源設定で設定した時間が経過すると表示がオフになります。
 - ・Feature packages :
 - ・Feature packages は削除されました。

Version 1.03

リリース日：2024-05-27

・Recieve アプリ

- ・表示モードとしてテーブルビューが利用できるようになりました。
- ・グラフビューでは、ゼロ値が赤いバーではなく、灰色のバーとして表示されるようになりました。現在のカーソル位置は、下の緑色のバーで表示されます。
- ・構成可能なソースタイムアウト（詳細設定で利用可能）。
- ・現在選択されているアドレスが永続的に保存されるようになりました。
- ・バグフィックス：存在しないプロトコルが有効として表示される問題を修正しました。
- ・バグフィックス：以前に Send アプリによって送信された場合にプロトコルが有効として表示される問題を修正しました。

・Send アプリ

- ・sACN 優先度の設定を許可します。
- ・現在選択されているアドレスは永続的に保存されます。
- ・いくつかの設定を詳細サブメニューに移動しました。

・Routing スクリーン (Send、Recieve アプリ)

- ・ルーティング画面が改良され、使いやすさが向上しました。
- ・画面では、コンテキスト (Send アプリまたは Recieve アプリ) に応じて、入力または出力構成にアクセスできるようになりました。
- ・左右を押して「OK」で確定することでプロトコルを選択できるようになりました。
- ・上または下を押すことでユニバースを変更できるようになりました。
 - ・オプションで、「OK」を長押しするとカーソル編集モードになり、大きなジャンプの編集が容易になります。

・RDM アプリ

- ・ファンクションキーで識別を切り替えることができるようになりました。
- ・アプリ起動時の完全検出を中止できるようになりました。
- ・バグフィックス：RDM アプリを閉じるとき、またはデバイスの電源をオフにするときに、識別情報が適切にクリアされるようになりました。

- Node アプリ (追加機能パッケージ)
 - ノードアプリを使用すると、デバイスを 2 ポートノードとして使用できます。
 - Art-Net と sACN 対応
 - 両方の XLR ポートは入力ポートまたは出力ポートとして使用できます。
 - 出力モードについては、Node アプリは以下をサポートします：
 - リフレッシュレート: Max と Relaxed
 - マージモード: HTP、LTP、Off
 - エラー時の動作: DMX Hold、Off
- Cable Test アプリ
 - ETH ドングルタブでは、ケーブルテスト設定メニューで設定できる色を T568A と T568B の間で切り替えられるようになりました。
- Device Settings
 - 電源オフ時間とディスプレイの明るさを下げるための追加オプション。
 - 項目の順序を変更: ファームウェアバージョンがブートローダーバージョンの前に表示されるようになりました。
 - ファームウェアバージョンは「major.minor」形式でのみ表示されます。完全なバージョンを表示するには、「OK」を押してください。
- ウェブインターフェイス:
 - ウェブインターフェイスが利用可能になりました。デバイスの IP をウェブブラウザに入力するとアクセスできます。
 - 現在、次の機能がサポートされています：
 - ファームウェアの更新: このページでは、デバイスのファームウェアを更新できます。
- ジェネラル:
 - メニュー内の数値や選択設定は、左ボタンと右ボタンを押して変更できます。
 - 設定の永続性を改善しました。

Version 1.02

リリース日：2024/2/27

- ・USB:WCID サポートでの問題を修正

Version 1.01

リリース日：2024/2/12

・Receive アプリ：

- ・プロトコルの状態を表示するプロトコルインジケータの導入。
 - ・プロトコルが無効になっている場合、インジケータは表示されません。
 - ・プロトコルが有効だが、信号がない場合は、灰色で表示されます。
 - ・プロトコルに有効な信号があるが、より優先度の高いプロトコルがあるために表示されない場合、その境界線が緑色に変わります。
 - ・プロトコルに有効な信号があり、現在表示されている場合は、完全に緑色になります。
- ・グラフ表示
 - ・Receive アプリの設定メニューで選択できます。
 - ・レベルが 0 の場合は赤色で表示されます。
 - ・現在選択されているチャンネルは緑色で強調表示されます。
- ・バグの修正：Receive アプリでは、入力信号は常に出力ポートに転送されます。

・Send アプリ

- ・Send アプリの設定で送信されるスロットの数を設定できるようになりました。

・Routing スクリーン

- ・Universe 0 が使用可能になりました。
- ・現在のユニバースがプロトコルに対して無効な場合、Art-net および sACN セレクターは無効になります。

・Cable test アプリ

- ・現在アクティブなイーサネットリンクがあるときに RJ45 ドングルテストをアクティブ化すると、RJ 45 ドングルを使用するための新しいプロンプトが表示されます。
- ・さらにいくつかの追加の接続ケースについて扱います。

- Timing アプリ：
 - バグ修正：タイミングが適用されると、入力信号は常に出力ポートに転送されます。
- General editors：
 - 値フィールドにフォーカスし、左右に移動してカーソルを移動できるようになりました。
 - 現在の値をクリアするには、ソフトキー「Backspace」を長押しします。
 - ハードキー「OK」を長押しすると、現在の位置に関係なく受け入れられます。
 - 変更が保存されていないエディタを「Back」ハードキーで閉じると、ダイアログがポップアップ表示されます。
- IP editor：
 - サブネットに対する有効性を追加チェックします。
- バッテリー
 - 実行中のデバイスのバッテリーインジケータにバーが 1 つ追加されました。
 - チャージングスクリーン：
 - 充電状態を示す充電アニメーションが改善されました。
 - 「Charging」または「Full」で充電状態を表示する充電テキスト。

Version 1.00

リリース日：2023/10/4

- 初回リリース

